

建設機械市場の現状

1. 建設機械出荷金額推移

過去6年間の「建設機械出荷金額実績（内需・外需）」の推移を表—1に示す。

我が国の建設機械市場は、最近では表—1に示すとおり1996年度に出荷金額はピークの2兆170億円に達したが、以後急激な減少に転じ、3年間でこのピークから出荷金額は33.2%も低下し、1999年度は1兆3,471億円となった。

2000年度においては漸く下げ止まり傾向が見られ、出荷金額は前年度比2.7%減少の1兆3,101億円となった。なお、その内訳については国内出荷8,815億円、海外出荷4,286億円となっている。

表—1 建設機械出荷実績（内需・外需）

(百万円)

		1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度
トラクタ	内需	128,953	144,529	111,500	88,576	89,095	91,587
	外需	109,209	130,673	151,012	185,873	93,258	83,276
	計	238,162	275,202	262,512	274,449	182,353	174,863
油圧ショベル	内需	376,808	402,362	312,824	247,496	263,380	267,425
	外需	172,868	189,301	214,421	208,604	176,600	163,180
	計	549,676	591,663	527,245	456,100	439,980	430,605
ミニショベル	内需	131,932	140,899	113,169	84,133	82,904	77,058
	外需	17,968	15,988	25,405	34,978	45,808	48,200
	計	149,900	156,887	138,574	119,111	128,712	125,258
建設用クレーン	内需	247,535	290,949	235,651	146,524	121,583	114,087
	外需	35,341	43,155	52,596	33,711	26,689	15,814
	計	282,876	334,104	288,247	180,235	148,272	129,901
道路機械	内需	62,549	69,138	56,413	44,681	39,171	39,754
	外需	10,862	16,283	15,078	15,605	11,556	16,661
	計	73,411	85,421	71,491	60,286	50,727	56,415
コンクリート機械	内需	56,954	62,161	49,335	32,857	30,707	32,612
	外需	5,338	5,061	3,446	1,924	1,320	1,651
	計	62,292	67,222	52,781	34,781	32,027	34,263
トンネル機械	内需	59,064	65,755	63,684	53,323	40,213	38,231
	外需	2,426	3,142	2,568	5,895	2,734	2,902
	計	61,490	68,897	66,252	59,218	42,947	41,133
基礎機械	内需	44,318	41,789	31,437	20,466	19,882	18,067
	外需	4,580	2,638	2,147	986	986	994
	計	48,898	44,427	33,584	21,452	20,868	19,061
油圧ブレーカ・圧砕機	内需	24,090	25,503	19,816	15,120	15,435	15,563
	外需	5,226	6,433	8,116	8,105	8,375	7,391
	計	29,316	31,936	27,932	23,225	23,810	22,954
その他建設機械	内需	92,251	90,239	76,093	57,690	60,752	60,908
	外需	22,150	30,175	27,798	24,997	27,897	23,696
	計	114,401	120,414	103,891	82,687	88,649	84,604
補給部品	内需	156,471	166,352	156,443	138,426	128,335	126,242
	外需	69,018	74,430	82,118	66,029	60,474	64,871
	計	225,489	240,782	238,561	204,455	188,809	191,113
合計	内需	1,380,925	1,499,676	1,226,365	929,292	891,457	881,534
	外需	454,986	517,279	584,705	586,707	455,697	428,636
	計	1,835,911	2,016,955	1,811,070	1,515,999	1,347,154	1,310,170

・道路機械：ロードローラ、タイヤローラ、振動ローラ、平板式締固め機械、アスファルトフィニッシャ、モータグレッダ、ロードスタビライザ、アスファルトプラント等

・コンクリート機械：コンクリートポンプ車、トラックミキサ車、コンクリートパイプレータ、コンクリートプラント等

・その他建設機械：ドリル、可搬式コンプレッサ、重ダンプトラック、不整地運搬車、建設廃棄物破砕機等

2. 市場動向

(1) 国内市場

過去6年間の「建設機械出荷金額推移（内需）」を図-1に示す。

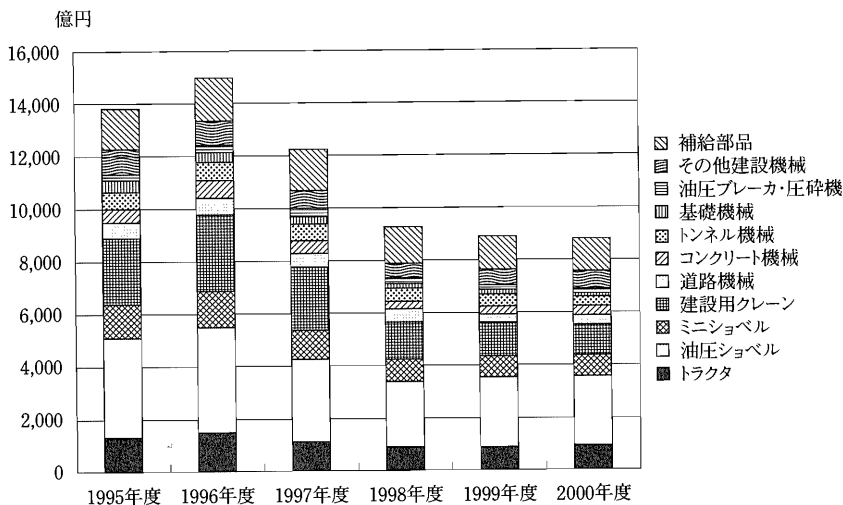


図-1 建設機械出荷金額推移（内需）

国内建設機械市場は1996年度をピークに、以後国内景気の低迷等により急激に落込んだが、ここ2、3年については政府の景気浮揚策の効果等により、前年度と比較して微減に止まっている。

2000年度における出荷金額は前年度比1.1%減少の8,815億円であり、明らかに下げ止まり傾向を示している。この下げ止まり傾向を反映してか、機種別の前年度比増減は、増加が6機種、減少が4機種及び補給部品と、増減が拮抗している。特に国内建設機械市場において出荷金額の30%以上を占め、市場動向のバロメータである油圧ショベルは前年度比1.5%増の2,674億円と上向き傾向を示している。

一方、国内建設機械市場を機種別需要動向の面から見ると、図-2の「建設機械出荷構成比推移（内需）」に示すように、ショベル系掘削機（油圧ショベル及びミニショベル）の構成比率は着実に上昇しており、2000年度においては

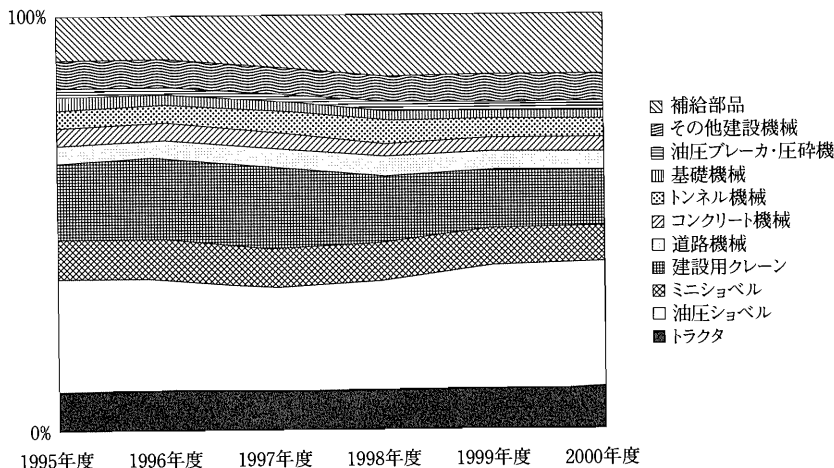


図-2 建設機械出荷構成比推移（内需）

統計

総出荷金額の39.1%を占めている。反対に建設用クレーンはピーク時（1996年度）の19.4%から2000年度は12.9%へと減少、またトラクタ等他の建設機械はほぼ横這いの傾向で推移している。

今後も多種多様に使用されているショベル系掘削機の高い汎用性からこの傾向は続くものと思われる。

（2） 海外市場

過去6年間の「建設機械出荷金額推移（外需）」を図-3、「建設機械完成品地域別輸出推移」を図-4に示す。

国内市場が冷え込む中、国内建設機械メーカーは北米を中心に海外市場へのお荷金額を伸ばし、1998年度にピークを迎えたが、以後東南アジアの景気低迷、北米の景気減速感などから急速な減少に転じている。1999年度は前年度比22.3%減少、2000年度においても前年度比5.9%減少の4,286億円となった。

建設機械完成品の主要輸出先は図-4に示すとおり、北米・中南米、欧州、アジアであるが、これら3大輸出先の2000年度完成品出荷金額は北米・中南米が前年度比14.9%減少の1,298億円、欧州が前年度比10.7%減少の731億円、アジアが前年度比13.6%減少の518億円と総じて減少している。一方、我が国から輸出される建設機械の機種別

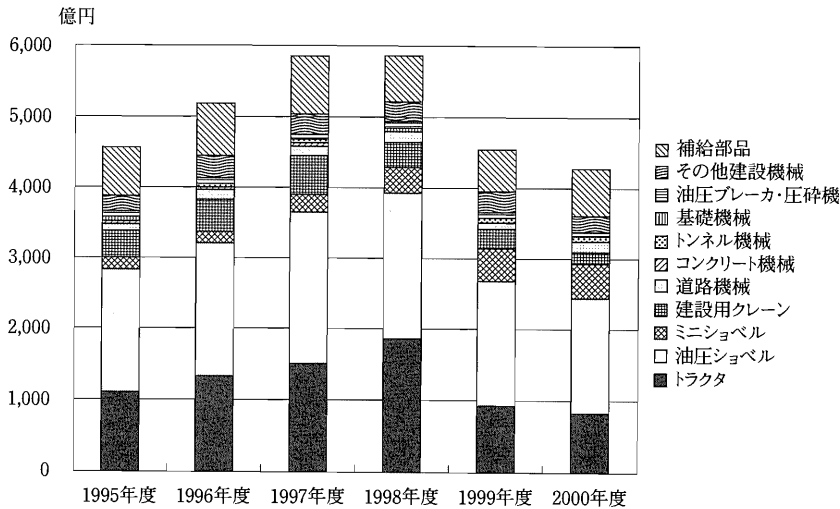


図-3 建設機械出荷金額推移（外需）

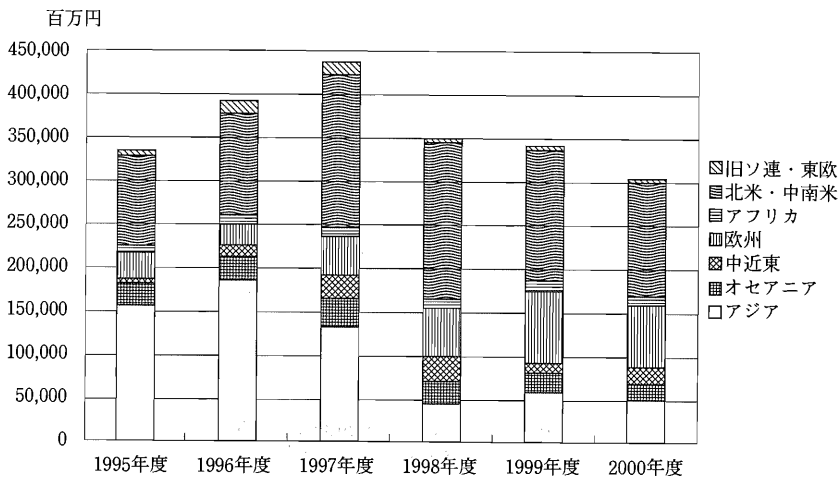


図-4 建設機械完成品地域別輸出推移

構成を見ると、図-5の「建設機械出荷構成比推移（外需）」に示すとおり、トラクタ、建設用クレーンのウエイトが減少する一方、国内同様ショベル系掘削機（油圧ショベル及びミニショベル）の比率が年々上昇し、2000年度においては総出荷金額の49.3%にもなった。特にミニショベルの増加が著しく、総出荷金額の11.2%を占めている。

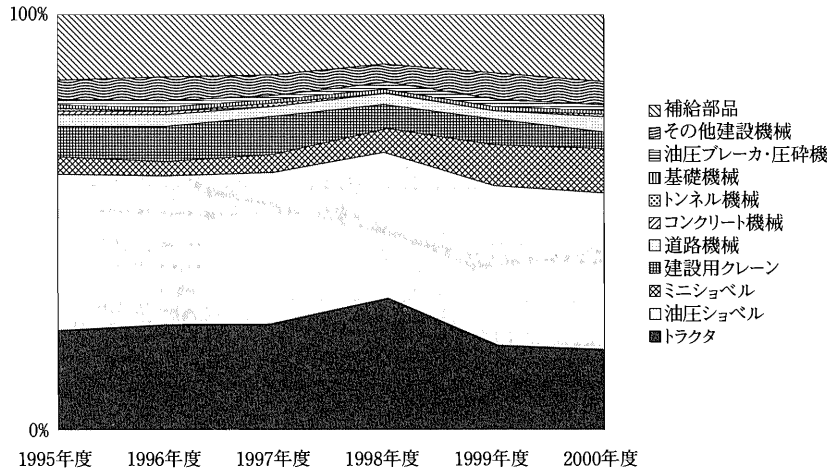


図-5 建設機械出荷構成比推移（外需）

ミニショベルの海外主力市場は、図-6の「ミニショベル輸出実績推移」に示すとおり欧州であり、2000年度地域別シェアは他地域を圧倒して全体の70.8%を占め、出荷金額は前年度比15.1%増の320億円となった。

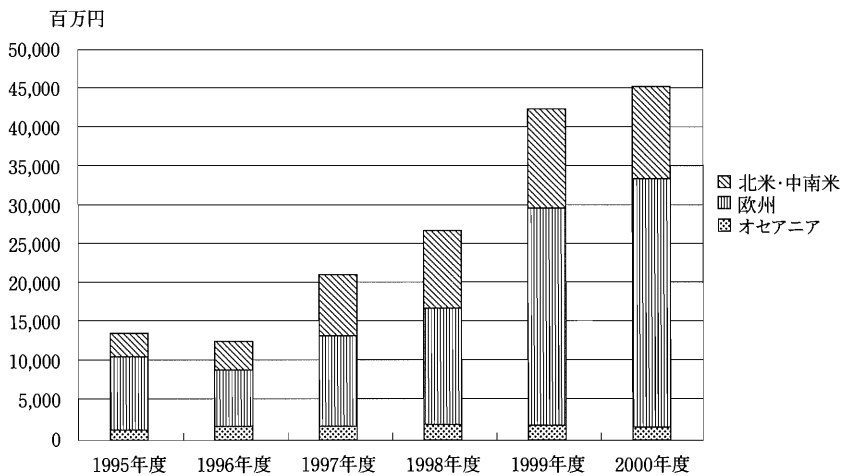


図-6 ミニショベル輸出実績推移

3. リース・レンタル動向

1980年代より国内建設業界において各種建設用資・機材のリース・レンタル業への依存率が上昇している。建設機械市場においても同様にリース・レンタル業向けへの出荷比率が年々上昇し、2000年度においては建設機械本体出荷金額の33.8%を占めている。

国内主要5製品における過去6年間のリース・レンタル業への出荷金額比率の推移を図-7に示す。

統計

図-7のとおり、トラクタを除き各製品とも増加傾向にあることがわかるが、特にショベル系掘削機のリース・レンタル比率が急速に伸びており、2000年度においてはミニショベル47.8%、油圧ショベル39.8%となっており、今後この傾向が続くものと思われる。

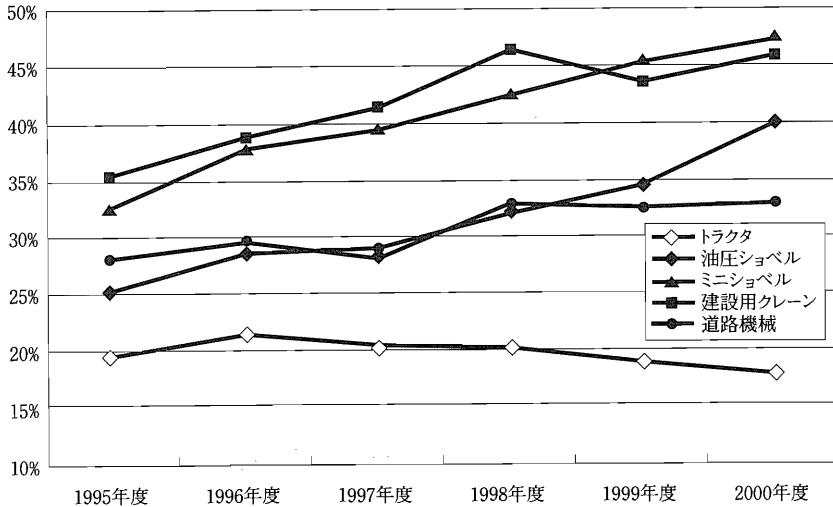


図-7 国内主要製品リース・レンタル比率

4. 中古車市場動向

中古車は新車販売時の下取り或いは新車販売との競合など、国内建設機械市場にも密接な影響を与えており、また最近の国内市場においては新車販売台数よりも中古車発生台数が上廻るなど中古車市場の動向が益々大きな影響を与えている。

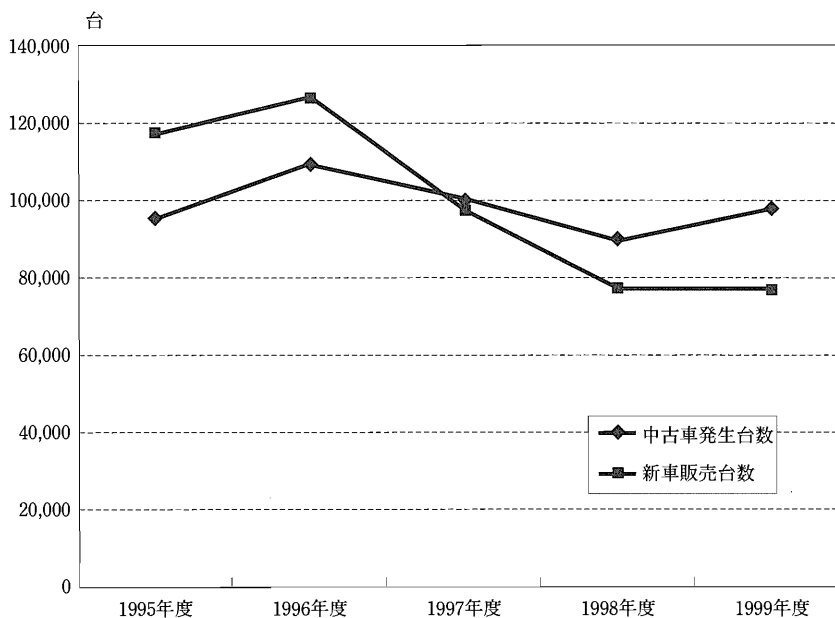
過去5年間の「国内中古車発生台数・新車販売台数（主要8機種）」を図-8に、「中古車需要の国内・海外構成（主要8機種）」を図-9に示す。なお、ここで言う主要8機種とは、油圧ショベル、ミニショベル、クローラトラクタ、ホイールローダ、クローラクレーン、ラフテレーンクレーン、トラッククレーン、締固め機械の8機種である。

図-8に示すとおり、1997年度に中古車発生台数が新車販売台数を上廻って以来、今日までこの傾向が続いている。これはユーザが新車購入時に保有車両を整理するため新車購入1台に対し複数台数を下取りに出す等の傾向が見られるためと思われる。また、最近の建設機械保有形態が、所有からレンタルへと言う大きな変化があり、当分この傾向は続くものと思われる。

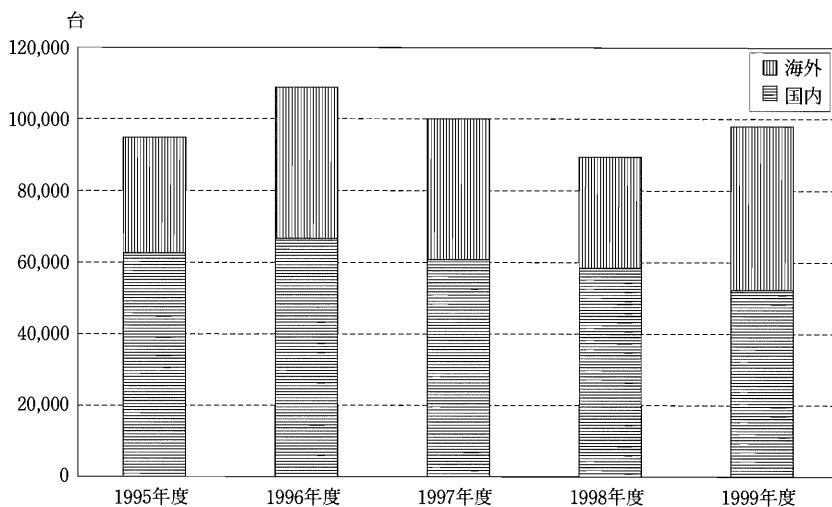
需要面においては図-9に示すとおり国内需要は減少しているが、海外需要は1999年度に大幅な増加が見られ、その輸出台数は45,360台と過去最高を記録し、前年度比14,480台増と急激に回復した。これはアジア地区の需要回復と米国、欧州への輸出が順調に推移していることが大きな要因である。この結果、国内で発生した中古車に対する全需要の約半数近くが海外需要で占めている（1999年度：46.2%）。中古車においても国内市場が縮小傾向にあることから、今後も海外需要への依存度はさらに大きくなるものと思われる。また、最近の大きな流れのひとつとして、国内各地での大規模オークション、インターネットオークションの開催など新しい販売形態が出てきている。特にネット関連についてはIT化の進捗に合せ、今後急速に普及して行くものと思われる。

5. 建設機械市場の今後の見通し

我が国の建設機械市場はバブル崩壊後、景気低迷による先行き不透明感から需要低迷が続いており、各建設機械



図—8 国内中古車発生台数・新車販売台数 (主要 8 機種)



図—9 中古車需要の国内・海外構成 (主要 8 機種)

メーカーはここ数年北米地区を中心とした海外需要に依存して来た。今後アジア地区の需要回復は見込まれるものの、米国の景気にも陰りが見え始め、新車の海外需要は依然厳しい状況が続くものと思われる。

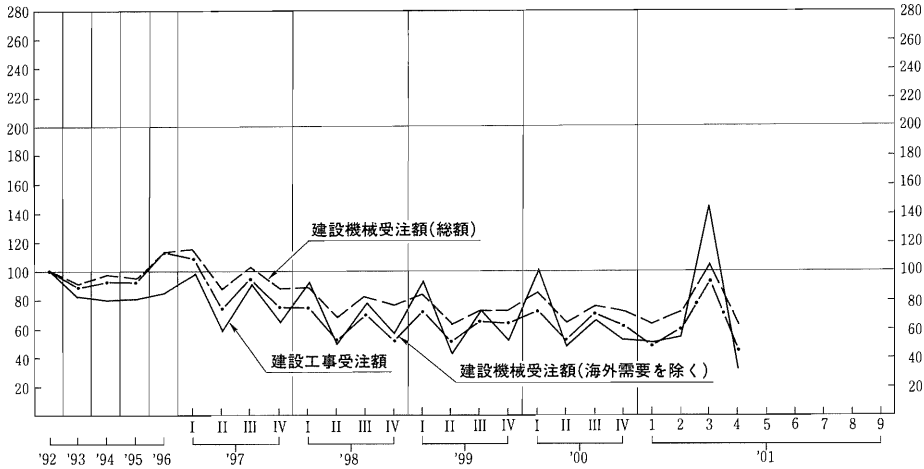
一方、国内需要については、建設機械の市場動向に大きな影響を及ぼす建設投資が減少する見通しであることから大きな回復は期待できず、リース・レンタル業への依存度をさらに高めながら当面現状レベルで推移するものと思われる。

なお、上記掲載統計諸資料は社団法人日本建設機械工業会発表の統計資料による。

統計

建設工事受注額・建設機械受注額の推移

建設工事受注額：建設工事受注動態統計調査(大手50社) (指数基準 1992年平均=100)
 建設機械受注額：機械受注統計調査(建設機械企業数27前後) (指数基準 1992年平均=100)



建設工事受注動態統計調査 (大手 50 社)

(単位：億円)

年 月	総 計	受 注 者 別						工 事 種 類 別		未 消 化 工 事 高	施 工 高
		民 間			官 公 庁	そ の 他	海 外	建 築	土 木		
		計	製 造 業	非 製 造 業							
1996年	203,812	121,077	21,411	99,666	65,304	5,440	11,991	129,686	74,125	216,529	205,590
1997年	188,683	116,190	21,956	94,234	55,485	5,175	11,833	122,737	65,946	204,028	201,180
1998年	167,747	103,361	16,700	86,662	51,132	4,719	8,535	106,206	61,541	193,823	183,759
1999年	155,242	96,192	12,637	83,555	50,169	4,631	4,250	97,073	58,169	186,191	164,564
2000年	159,439	101,397	17,588	83,808	45,494	6,188	6,360	104,913	54,526	180,331	160,536
2000年 4月	7,165	5,060	860	4,200	1,229	478	399	4,876	2,289	195,981	9,333
5月	9,317	5,580	1,505	4,075	2,640	472	625	6,401	2,916	194,333	11,383
6月	11,656	6,712	1,188	5,524	3,155	573	1,215	7,519	4,137	193,748	12,500
7月	9,447	6,115	1,156	4,958	3,711	500	121	6,390	3,056	190,997	12,268
8月	10,870	6,530	1,150	5,380	3,508	501	330	7,277	3,592	189,657	12,369
9月	19,412	12,903	2,151	10,751	5,023	674	813	13,141	6,270	190,038	16,446
10月	8,763	4,975	1,295	3,680	3,191	453	144	5,290	3,473	186,213	12,656
11月	10,607	6,377	1,390	4,988	3,107	516	606	6,854	3,752	183,451	13,407
12月	11,819	7,326	1,522	5,804	3,428	603	461	8,193	3,626	180,331	14,851
2001年 1月	9,952	5,560	1,288	4,272	2,867	455	1,069	5,852	4,099	178,782	11,822
2月	11,309	7,324	1,371	5,953	3,038	538	409	7,356	3,953	176,992	13,417
3月	29,365	18,796	3,047	15,749	8,545	824	1,200	18,100	11,265	183,873	22,609
4月	6,283	4,146	966	3,180	1,373	488	277	3,954	2,330	—	—

建設機械受注実績

(単位：億円)

年 月	'96年	'97年	'98年	'99年	'00年	'00年 4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	'01年 1月	2月	3月	4月
総 額	12,862	13,720	10,327	9,471	9,748	656	668	794	709	767	1,007	712	750	881	693	791	1,136	676
海 外 需 要	4,456	3,931	4,171	3,486	3,586	284	272	312	264	277	264	232	244	379	306	316	397	331
海外需要を除く	8,406	9,789	6,156	5,985	6,162	372	396	482	445	490	743	480	506	502	387	475	739	345

(注) '92年~'96年は年平均で、'97年~'00年は四半期ごとの平均値で図示した。

出典：国土交通省建設工事受注動態統計調査
 内閣府経済社会総合研究所機械受注統計調査